

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】令和 2 年 9 月 17 日 (2020.9.17)

【公開番号】特開 2019-76036 (P2019-76036A)

【公開日】令和 1 年 5 月 23 日 (2019.5.23)

【年通号数】公開・登録公報 2019-019

【出願番号】特願 2017-206293 (P2017-206293)

【国際特許分類】

A 0 1 K 89/015 (2006.01)

【F I】

A 0 1 K 89/015 F

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 7 月 22 日 (2020.7.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 1】

クラッチプレート C 1 等はバネ等により付勢されており、クラッチレバー 1 7 0 への前記押し下げ操作が解除されると、クラッチレバー 1 7 0 は上方位置に復帰する（クラッチ機構は、オン状態に復帰する）。なお、クラッチレバー 1 7 0 への前記押し下げ操作が解除されても、クラッチレバー 1 7 0 は下方の位置で留まり（クラッチ機構はオフ状態のままとなる）、再度クラッチレバー 1 7 0 への前記押し下げ操作があったときに、クラッチレバー 1 7 0 を上方位置に復帰させるように、クラッチ機構を構成してもよい。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 8】

上記実施の形態では、第 1 部材 1 8 1 をクラッチレバー 1 7 0 の上方からクラッチレバー 1 7 0 に取り付け、第 2 部材 1 8 2 をクラッチレバー 1 7 0 の第 2 面 1 7 2 側からクラッチレバー 1 7 0 に取り付けていたが、本発明はこれに限られない。例えば、第 1 部材 1 8 1 及び第 2 部材 1 8 2 をいずれもブロック状の部材とし、第 1 部材 1 8 1 の下面に左右方向に延びるスリットを形成し、第 2 部材 1 8 2 の上面に左右方向に延びるスリットを形成して、第 1 部材 1 8 1 及び第 2 部材 1 8 2 でクラッチレバー 1 7 0 を上下から挟み込むように構成してもよい。